

がんばったこと

1年松組 ふじ山こうすけ

1学期や2学期は、いっぱいみんなにたすけてもらっていたけど、つぎはぼくがみんなをたすけるばんだときめました。それで、れおくんが、ころんでないから、ぼくが

「れおくん、だいじょうぶ」

といたら、れおくんが、

「うん」

とってくれました。はじめて一人たすけることができたぞとおもいました。

これからも、どんどんたすけていきたいとおもいました。



がんばったこと

1年竹組 一やなぎ はるな

1年生でがんばったことは、なわとびのにじゅうとびのれんしゅうです。にじゅうとびを、なんにちもなんにちもれんしゅうしました。わたしはなわをはやくまわせないで、はやくまわすれんしゅうもしました。

もう一つ、がんばったことがあります。それはあやとびです。わたしがひとみさんとれんしゅうしたとき、なわをクロスして、すぐとまってしまいました。でもいまは、すらすらできるようになってきました。いえにかえってしゅくだいをしてから、なわとびにいきました。とつてもたのしかったです。



この1年でがんばったこと

5年松組 伊藤 琢真

ぼくが、この一年でがんばったことは、二つあります。

一つ目は、委員会の仕事で特にがんばりました。5年生になり、どの委員会に入ろうか、とても迷いましたが、ぼくは、飼育・園芸委員会に入りました。この委員会に入った理由は、生き物のことをもっと知ってみたい、世話をしてみたいと思ったからです。でも入ってみたら、仕事が思ったより大変でした。ウサギ小屋では、大量のフンを片付けなければいけません。尿がまじって、とても強いにおいがします。エサや水も毎日与えなければいけません。それに、健康チェックは欠かせません。友達5人と当番のときに分担をして行います。

最初のころは、花だんの水やりの長いホースをまくことや、ウサギのフンをそうじすることにとっても苦労しました。それは今でも大変な仕事です。でも、みんなで協力し、一生けんめいがんばったら、少しずつ慣れてきて、少しずつ早くできるようになりました。しかしそれでも、大変な仕事には変わりはありません。そのうちにぼくは、「もっと早く仕事を片付けよう」「もっとウサギを観察しよう」と、目標が高くなってきました。みんなでがんばって、仕事をしているつもりでした。

しかしある日、2わのウサギが病気になってしまいました。その原因が、掃除が不十分だったことと分かり、それからは、もっとがんばって掃除をしました。当番の日には、40分以上やる日も多かったです。でもこの仕事は命に関わることだと考え、がんばりました。でも、ぼくががんばることのできる本当の理由、それはこの仕事が楽しいということです。いつも当番の日が早く来ないかなと思うほどです。当番の日が来ると、いつも「やったあ」と気合いが入りがんばることができます。それに「他の委員会の人もがんばっているんだ。負けないようにぼくもがんばらないと」、そう思うとさらにがんばることができました。

二つ目にがんばったことは、給食のときに机や配ぜん台をふくことです。その仕事は1班に1人、クラスに8人いる給食リーダーが行います。それを4年生の2月からやり始め、楽しかったので、そのときからずっとやり続けています。2学期になると慣れてきたので、一人一人の机をこするように丁寧にふくようになりました。そして、毎日一番早くバケツに水をくんで持ってきて、配ぜん台をふいているうちに、給食リーダーの中心となってやるようになりました。片付けも協力してがんばりました。

5年生になり、高学年の仲間入りをして、一つ一つの仕事に責任をもつこ

との大切さを知ることができました。今まで知らなかった5・6年生のやっていた仕事や、桜小のためにやっていた仕事に気付くこともできました。

来年は、桜小学校の最高学年となります。しっかりと自覚をもち、また一つ大きく成長できるよう、がんばっていきたいと思います。



土台

5年竹組 村田 啓佳

僕は、この一年を通して、多くのことに取り組み、たくさん成長することができました。そして、ぼくが自立していくために必要な土台を手に入れることができました。その中の3つを紹介します。

一つ目は、野外活動でのことです。ぼくは野外活動で、仲間がいることの大切さを実感することができました。ハイキングは、一人だけでは楽しくありません。もし一人だったら、「あれ、きれいだね」などと、思ったことを話す人がいないからです。仲間がいたからこそ、一緒に話したり楽しんだりすることができました。

そんな野外活動を終え、僕は家に帰って思ったことがあります。それは、「野外活動は、友情を深めたり楽しんだりすることも大切だけれど、将来自立するための土台作りのためにあるのだ」ということです。野外活動では、晩ごはんを自分たちだけで作るし、ベッドメイキングや宿泊する用意も自分でやらなければいけません。そしてほとんどのことは、しおりを見て、自分で行動しなければならないからです。ぼくは野外活動を経験して、『自分のことは自分でやる』という意識が高まりました。だから、自立するための土台を一つ増やすことができました。

二つ目は、プール清掃でのことです。ここでもまた一つ自立するための土台を増やすことができました。僕は、プール清掃中に一つの疑問がわいてきました。なぜ下級生は、プール清掃をしないのだろうか。そしてそれは、下級生には仕事の内容が大きすぎるからだと思いました。僕もみんなも、毎日少しずつの土台を積み上げてきました。だから、毎日真面目に清掃に取り組むことは、大変な清掃ができるようになるためのものだったのかなと僕は

思いました。プール清掃は大変でしたが、桜小のみんなのために働くことに喜びを感じながら取り組むことができました。

三つ目は6年生を送る会でのことです。僕は実行委員として、いろいろな役割がありました。ここでも、土台をまた一つ増やすことができました。その土台をどうやって手に入れたかという、努力で手に入れました。実行委員の仕事は約1ヶ月前からはじまり、とてもハードでした。でも、努力で何とかやりとげることができました。実行委員になってよかったと思えました。

このように僕は、この一年でたくさん成長することができました。しかし、まだ土台はたくさん必要です。なので、これからも、もっともっと何事にもがんばって取り組んでいこうと思います。僕は、今日で桜小学校とお別れをします。東京の小学校へ転校することになったからです。桜小で積み重ねてきた土台を大切にして、東京へ行ってからも、土台を積み重ねていきます。

